

ヒメハッカ *Mentha japonica* (Miq.) Makino

【評価理由】

全国的に減少傾向の著しい湿水性植物で、愛知県でも過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。細く長い地下茎がある。地上茎は直立して高さ20～40cm、節に短い軟毛があるほかは無毛である。葉は対生し、柄はごく短いかまたはほとんどなく、葉身は卵状長楕円形、長さ1～2cm、幅3～8mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。花期は8～10月、花は枝先に集まってつき、がくは5浅裂し、長さ約2.5mm、無毛で腺点がある。花冠は4裂し、淡紅紫色またはほとんど白色、長さ約3.5mmである。茎が長く1m以上に伸び、しばしば倒伏するものをハイヒメハッカ form. *prostrata* Sugim.という。

【分布の概要】

【県内の分布】

狭義のヒメハッカの型が東：15 豊橋北部（岩田町，鳥居喜一 21226, 1947-10-19, HNSM）と18 田原西部（伊良湖，岡田善敏 s.n., 1948-10-22）、ハイヒメハッカの型が東：17 田原東部（赤羽根町高松北，小林 54059, 1994-9-24）、尾：42b 半田（半田池，井波一雄 s.n., 1954-9-4, CBM222693）で採集されているが、いずれも現存を確認できない。

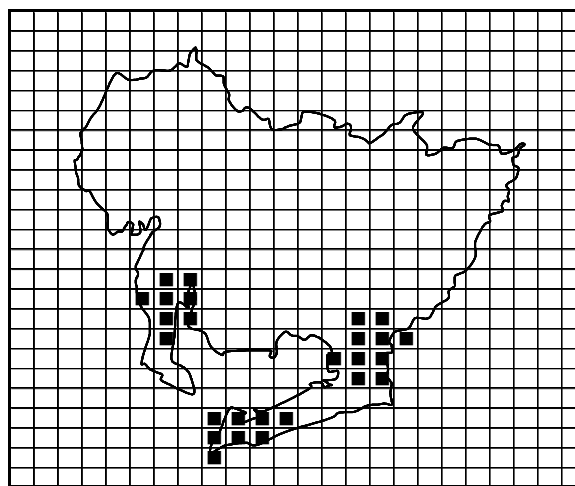
【国内の分布】

北海道および本州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

ため池の岸などの湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【過去の生育状況／絶滅の要因】

比較的近年まで現存が確認されていたのは1カ所だけであるが、この場所も周辺の樹木が生長し、本種が生育できそうな水辺の草地が消滅してしまった。

【保全上の留意点】

ため池周辺の森林を伐採し、水辺の草地を維持する必要がある。

【特記事項】

ハッカと同様の芳香がある。

【関連文献】

保草本 I p.175, 平草本 III p.84, 平新版 5 p.136, SOS 旧版 p.77.